

燃料電池フォークリフト市販車両を国内初導入

2016年11月より株式会社豊田自動織機（社長：大西 朗）・トヨタL&Fカンパニーが販売を開始した燃料電池フォークリフト(以下、FCFL という)の市販車両（1号車）を関西エアポート株式会社が、関西国際空港の国際貨物地区に導入することとなりましたのでお知らせいたします。関西エアポート株式会社は環境への負荷を最小限に抑えた空港運営をしております。今回の導入は、環境省の「物流分野におけるCO2削減対策促進事業」が活用されており、CO2排出量の削減への第一歩となります。

関西国際空港の国際貨物地区では、環境省の「平成26年度CO2排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業」にて採択された「燃料電池フォークリフトの実用化と最適水素インフラ整備の開発・実証事業」の一環で、水素グリッドプロジェクトとして2015年2月から実証事業を開始しました。2016年3月には実用化モデル試作車両2台を追加投入し展開しております。

引き続き、水素グリッドプロジェクトとして、関西国際空港内の旅客輸送用バスや貨物ハンドリングのための産業車両についても、水素エネルギーで走行する車両等に転換し、水素エネルギーの導入に向けた取り組みを進めて参ります。

- 名称 燃料電池フォークリフト
- 納車 2016年11月16日（水）
- ボディカラー ミントブルー
- 水素搭載量 1.2kg
- 稼働時間※ 8時間

※株式会社豊田自動織機 2016年7月26日付リリースより



○実証事業の概要

空港貨物倉庫にFCFLを導入することで従来のフォークリフトに比べCO2排出量削減効果が期待されると共に作業環境の改善が図られます。また、ディスペンサーによる水素燃料の充電時間は3分程度、充電や電池交換なしでの連続稼働が可能となることから、作業効率が大幅に向上します。

○実証事業における各社の役割（順不同）

各社	役割
株式会社豊田自動織機	FCFLの開発
岩谷産業株式会社	大規模水素供給インフラの開発、整備、運用
トヨタ自動車株式会社	燃料電池セル・システムの開発、セル供給
貨物事業者	FCFLの導入・運用
大阪府	関西イノベーション国際戦略総合特区制度の活用支援
関西エアポート株式会社	空港施設への水素エネルギー導入に向けた関係者調整

○実証事業の計画 （計画）2017年

液化水素貯蔵による大規模水素充填設備の整備
（ディスペンサー3基及び高圧水素移送配管設置）

【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】

関西エアポート株式会社
コーポレートコミュニケーション部 広報グループ
Tel : 072-455-2201

関西エアポート株式会社 について

関西エアポート株式会社は、関西国際空港（KIX）および大阪国際空港（ITM）の運営を新関西国際空港株式会社から引継ぎ、2016年4月1日より両空港の運営会社として事業を開始しました。関西エアポートは、オリックス株式会社とVINCI Airports（ヴァンシ・エアポート）を中核とするコンソーシアムにより設立されました。

関西エアポートは、両空港の安全とセキュリティを常に最優先しつつ、適切な投資と効率的な運営によって国内外からの空港利用者へのサービスを強化し、両空港の可能性を最大限に引き出し、地域コミュニティへ貢献することを目標としています。

関西エアポートは、2015年12月15日付けで新関西国際空港株式会社との間で、事業期間を44年とする「関西国際空港及び大阪国際空港特定空港運営事業等公共施設等運営権実施契約」（実施契約）を締結しています。

会社名

本社	大阪府泉佐野市泉州空港北1番地 大阪市西区西本町一丁目4番1号（登記上）	資本金	250億円
代表者	代表取締役社長 山谷 佳之 代表取締役副社長 エマヌエル・ムノント	設立年月日	2015年12月1日
事業内容	関西国際空港および大阪国際空港の運営業務、管理受託業務等	株主	オリックス 40%、ヴァンシ・エアポート 40%、その他の出資者 20% (*1)



オリックス株式会社について

オリックスは常に新しいビジネスを追求し、先進的な商品・サービスを提供する金融サービスグループです。

1964年にリース事業からスタートして隣接分野に進出し、現在では融資、投資、生命保険、銀行、資産運用、自動車関連、不動産、環境エネルギー関連などへ事業を広げています。また、1971年の香港進出を皮切りに世界36カ国・地域に拠点を設け、グローバルに展開しています。

2014年に50周年を迎え、これからも経営戦略である「金融+サービス」の加速化、「アジア等新興国の成長を取り込む」を推進し、新たな事業機会の獲得と持続的な成長を目指すと同時に、社会に貢献してまいります。



ヴァンシ・エアポートは、国際空港運営における世界上位5社のうちの1社として、フランスで13、ポルトガルで10（リスボンのハブ空港を含む）、カンボジアで3、日本で2、ドミニカで6、そしてチリで1空港の合計35空港の開発および運営を行っています。ヴァンシ・エアポートは、運営する空港ネットワークの年間利用者数は130億人にのぼり、170社を超える航空会社が就航しています。

ヴァンシ・エアポートは、深い知見と、プロフェッショナルリズムあふれる世界各国の10,600名のスタッフの力を合わせ、その投資力や国際ネットワーク、既存空港のインフラ運営最適化、施設の拡充、新規建設における専門性を活かし、空港の開発、資金調達、建設、および運営を行っています。詳細につきましては、www.vinci-airports.com をご覧ください。

(*1) その他の出資者

株式会社アシックス、岩谷産業株式会社、大阪瓦斯株式会社、株式会社大林組、オムロン株式会社、関西電力株式会社、近鉄グループホールディングス株式会社、京阪ホールディングス株式会社、サントリーホールディングス株式会社、株式会社ジェイティービー、積水ハウス株式会社、ダイキン工業株式会社、大和ハウス工業株式会社、株式会社竹中工務店、南海電気鉄道株式会社、西日本電信電話株式会社、パナソニック株式会社、阪急阪神ホールディングス株式会社、レンゴー株式会社、株式会社池田泉州銀行、株式会社紀陽銀行、株式会社京都銀行、株式会社滋賀銀行、株式会社南都銀行、日本生命保険相互会社、株式会社みずほ銀行、三井住友信託銀行株式会社、株式会社三菱東京UFJ銀行、株式会社りそな銀行、株式会社民間資金等活用事業推進機構

(*2) 日本、チリ、ドミニカ共和国の各空港のデータを含まず。